

**【国際賞】黄 潤秋氏** (中国・成都理工大学 副学長・教授)

黄教授は、1988年に成都理工大学において応用地質学に関する博士号を取得し、1992年より同大学の教授をしている。現在は、同大学の副学長及びState Key Laboratory of Geohazards Prevention and Geoenvironment ProtectionのDirectorとして、同大学を牽引する立場にある。2008年5月に発生した中国四川大地震では、発生直後から大学調査団のリーダーとして災害現場に入り、地震地すべりの調査研究を行い、成果の報告を国内外で活発に行ってきた。その調査活動と研究成果は、国内外で高く評価されている。

学会活動では、現在International Association for Engineering Geology and the Environment (IAEG)の副会長として国際的に活躍している。中国国内でも中国応用地質学会及び中国岩盤力学・岩盤工学会において役員を務めており、2008年には中国応用地質学会の会長を歴任するなど、国内外の関連学会において重要な役割を果たしている。

国内外での活発な活動と業績が認められ、国際応用地質学会Richard Wolters賞(1996年)、中国国家科学技術進歩賞一等賞(2005年)、李四光地質科学賞(2007年)、などを受賞している。四川大地震による地すべり災害の調査、研究に対して四川省科学技術進歩賞一等賞(2011年)を受賞している。

2008年の四川大地震以降、黄教授と日本地すべり学会は、次のような交流を行ってきた。

- ①2008年6月末に岩手・宮城内陸地震による地震地すべりの調査を行い、6月23日に仙台で開かれた本学会主催の「山地災害報告会」において特別講演を行った。
- ②2008年8月に開かれた第47回研究発表会(箱根)において中国四

川大地震と岩手・宮城内陸地震に関する特別セッションが開催され、黄教授の推薦により招待された許強教授(成都理工大学)が基調講演を行った。

- ③2008年11月に日本地すべり学会汶川地震災害調査団(15名)が成都に派遣され、その期間中の11月6日に、黄教授を中心に成都理工大学の主催で国際ワークショップが開かれ、中国、日本、オランダ、ニュージーランドからの研究者が研究発表と意見交換を行った。

- ④2009年9月に日本地すべり学会汶川地震災害調査団(9名)が成都に派遣され、黄教授を中心とする成都理工大学グループとの意見交換会を開催した。

- ⑤その後も、日本地すべり学会の多くの会員が四川大地震による斜面崩壊地を調査に訪れているが、彼らの多くが黄教授を中心とする成都理工大学グループから多大な支援を受けた。

このように、日本地すべり学会と黄教授を中心とした成都理工大学のグループとは、特に2008年以降、密度の濃い交流を継続している。

上述したように、黄潤秋教授は、日本地すべり学会調査団による四川大地震災害の地すべり調査活動に対して献身的な支援を行うとともに、本学会主催の行事において特別講演を行うなど、多大な貢献を行ってきた。また地すべり災害の分野において中国国内で活発な調査研究活動を行い、その成果と業績が国内外で高い評価を得ている。以上のような理由で日本地すべり学会国際賞を受賞することになった。(鶴飼恵三)

